

スタッフ便り

新年度になり、入学、進学、就職と新しい環境での生活が始まった方も多いことでしょう。私もこの4月に仙台へ単身赴任し、新しい生活を始めました。一人暮らしは学生以来です。学生時代には家賃8千円の6畳一間、台所とトイレは8人の共同利用で、お風呂もありませんでした。冬には雪がしんと降る中、銭湯へ行き、一回20円のドライヤー代をけちり、家に着くころには髪の毛が“つらら”のように凍っていました。そして暖房器具はコタツだけ。コタツの中に潜り込んで凍った髪の毛を乾かしながら寒さに耐えていました。あれから30年以上たち、学生時代とは見違えるような住環境を仙台に準備しました。地下鉄の駅から歩いて5分の新築アパートで、お風呂とトイレも分かれています。しかし、関西で学生生活している息子の家賃とは1万円違い。社会人として給料をもらっているのに学生と同じレベルなのかと思いつつ、上野の山の桜を見て、一人新幹線で仙台へと赴任してきました。これから、皆さん、よろしくお願いいたします。(A.M)

Googleが開発したディープラーニングを用いた囲碁プログラム「AlphaGo」が、2016年3月に世界的な囲碁棋士のトッププロである、イ・セドル九段に4勝1敗で勝ち越したことが大きな話題となりました。さらに改良版のプログラム「Master」は2017年1月、ネット上の非公式戦ながら各国のプロ棋士相手に60連勝したと報じられています。数年前まではプログラムがプロの囲碁棋士に、ハンディキャップ無しで勝利するにはあと20年はかかるというのが通説でした。

各国のプロ棋士を破った囲碁プログラムは、画像認識のAIを囲碁プログラムに応用したもので、プログラム同士が膨大な局数を対局して得られた盤面の画像を統計的に判断し、最善と判断される次の着手を決定する方法だそうです。日本囲碁界で前人未踏の七冠を達成した、井山裕太棋聖（現六冠）はこのプログラムの好手を「人間ではなかなか発想できない斬新な手」と評しています。2000年以上と言われる囲碁の歴史の中でも発見できなかった手を、AIが発見してしまったのでしょうか。

AIが世界的なトッププロに勝ったことは衝撃的でしたが、囲碁は「棋道」とも呼ばれる芸術文化です。技術の創造と文化の発展には「競争」と「協調」の両輪が必要なのでは、と深く感じました。(T.Y)

サイバーサイエンスセンター・情報部情報基盤課スタッフ退職者と異動のお知らせ

2017.3.31 付け

【退職】

千葉 実 情報基盤課長（定年退職、再雇用職員へ）
岡部 公起 スーパーコンピューティング研究部 産学官連携研究員（任期満了退職）

2017.4.1 付け

【転入】

大沼 忠弘 情報基盤課長（福島大学学術情報課長から）
魚住 洋佑 先端情報技術研究部 産学官連携研究員
（医学系研究科産学官連携研究員から）

【採用】

Muhammad Alfian Amrizal スーパーコンピューティング研究部 研究支援者
（情報科学研究科大学院生から）

【転出】

栗原 尚志 情報基盤課長補佐（災害科学国際研究所専門員へ）



サイバーサイエンスセンター西側から

SENAC 編集部会

滝沢寛之 小林広明 水木敬明 後藤英昭
江川隆輔 佐藤恵美子 吉田貴子 大泉健治
小野 敏 斉藤くみ子

平成 29 年 4 月 発行

編集・発行 東北大学

サイバーサイエンスセンター

仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

郵便番号 980-8578

印刷 東北大学生協同組合

プリントコープ